



【5月13日（日）開設6周年のつどい、ぜひご参加を！】

会員みなさま、ご支援くださっているみなさま。

この5月で当測定所も開設6周年を迎えることとなりますので、記念のつどいを開催します。

京都・市民放射能測定所 開設6周年のつどい

5月13日（日）13時30分～17時 **こどもみらい館・京都**（地下鉄丸太町駅下車）

ぜひご参加ください。

大飯原発が再稼働しましたが、事故が起これば、京都が汚染地域となり、京都の私たちが被害の当事者になります。なので、これまで原発の規制基準と避難計画の問題点を詳細に検討し、警鐘を鳴らしてこられた市川章人さん（京都自治体問題研究所）につどいの講師をお願いしました。他にも当測定所の取組み報告と会員総会、放射線の健康影響についての講演などを企画しています。

原子力規制委員会の放射線審議会は3月2日、放射線被曝の基準を緩和する検討を開始しました。これまでは空間放射線量「毎時0.23マイクロシーベルト」が年間追加被曝1ミリシーベルトに相当すると計算していましたが、更田委員長は計算式を変えて、「毎時1マイクロシーベルトの所で生活しても年間1ミリシーベルトに達しないように計算しよう」と言うのです。汚染の実態を消し去り、市民に被曝を強要するものに他なりません。

このような危険な情勢の中で、市民の測定所が果たすべき役割を再確認できるつどいをしていきたいと考えています。

ぜひ、多くの方のご参加をお願いいたします。

2018年4月5日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利

会報第11号の内容

【2面】3月21日「しあわせになるための福島差別論」を批判するつどいの報告

【3面】気になる測定結果 福井市と福島市の灰を比べてみると・・・見えてくるものは？

【4面】2月18日トリチウム勉強会の報告、インフォメーション 測定所からのお願い

放射能を気にしなければしあわせになれるのか？

「しあわせになるための「福島差別」論」を批判する

3 / 2 1 講演会報告

今年1月に出版された「しあわせになるための「福島差別」論」（かもがわ出版）は被曝による健康被害を一貫して否定しています。除染目標1ミリシーベルト基準の緩和や米の全量検査からサンプル検査への移行、県民健康調査の縮小を主張しています。

この本は、昨年12月に復興庁が発表した「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に呼応し、一般的には御用学者とはみられていない学者・文化人を取り込み、放射能安全神話を「下から」作り出すものといえます。

私たちは、この本の主張を社会科学、自然科学の両面から正しく批判しようとして、この講演会を開催しました。

当日会場満杯60名以上の方の参加があり、この問題への関心の高さを感じました。



当日の様子を記事にしてくれた週刊MDS 1521号の記事より抜粋しました。

(http://www.mdsweb.jp/doc/1521/1521_08t.html)

主催者の測定所副代表福島敦子さんは、本の「はじめに」（福島大学名誉教授清水修二）を取り上げ、「福島県人に対する人権侵害がある。清水さんは加害者は差別する人というが、私は、国、東電だと思う」。福島さんは原発賠償訴訟京都原告団共同代表でもある。本書批判の基本的視点だ。

憲法学者の中里見博さん（大阪電気通信大学教員）は、仮に「放射線の健康被害が科学的に未解明」としても、「どの程度危険かわからないという不安・恐怖感を与えることは平穩生活権の侵害」と指摘した。避難生活を経験している中里見さん。「憲法第25条の健康・文化権、前文の平和的生存権、それに加える第3の生存権として、原発を完全に放棄させる権利とできないか」と問題意識を語った。

物理学者の山田耕作さん（京大名誉教授）は、被ばくによる健康被害の事実をいくつもあげ、この本の出版は帰還政策に呼応した被害隠しと指摘。放射線防護学を専門とする立命大名誉教授安齋氏が自然界の放射性物質と人工放射性物質を区別せず体内蓄積による内部被ばくの危険性を無視していると強調した。

日本科学者会議京都支部代表幹事の宗川吉汪（よしひろ）さんは、福島県民健康調査の本格調査データから、放射線量の高い地域が小児甲状腺がんの罹患率が高いことを明らかにした。本では、先行調査データだけ使い、影響はないと結論付けている。「被ばく被害がないのであれば、反核も反原発もしなくていい」と著者の一人、原水禁世界大会の運営委員会共同代表をつとめた日本大学准教授野口氏を批判した。

会場から、保養事業に取り組むジャーナリスト広河隆一さんが発言。「この本は圧力。福島現地ではますます不安を口に出せなくなっている。保養事業を否定するもので、放ってはおけない。東京でも4月に集会を準備している」。福島のもつてアンケートをとったところ、保養事業を続けてほしいとの回答が多数だったことを紹介した。現地に寄り添うとはこういう取り組みなのだ納得できる。

「避難先で被ばくしては意味がない」。避難者の不安に応え、2012年5月京都・市民放射能測定所が活動を始めた。事故後7年経って、測定依頼は減ってきているという。放射能汚染隠しが強まる一方で、大飯原発など再稼働が強行されている。あらためて、測定所の役割が高まっている。



気になる測定結果を比べてみると・・・

放射能測定結果

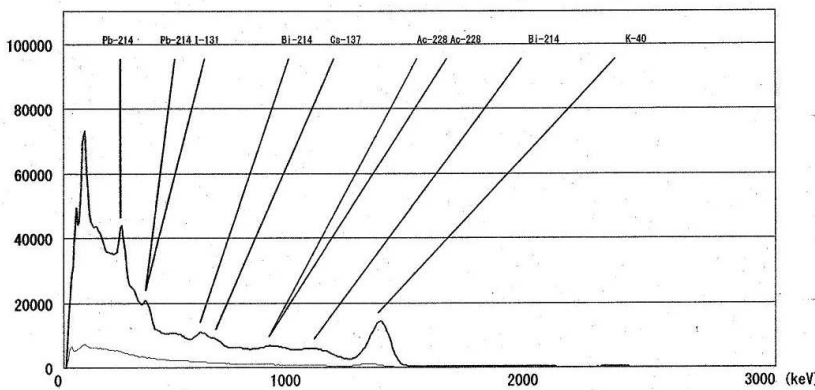
印刷日時：2018/04/02 19:24:51

測定場所	丹波橋測定室	測定者	佐藤和利
測定番号	T180331-01	測定機器	AT1320A (S/N:20680)
測定日時	2018年03月31日 14時55分50秒	測定時間	63000 秒
測定容器	Marinelli, 1l	試料重量	814 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	灰 福井市(311以降の薪)		
セシウム合計	68.7 ± 10.0 Bq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs-137	25.6 Bq/kg	±5.1 Bq/kg	4.8%	0.89 Bq/kg	P
検出	Cs-134	43.1 Bq/kg	±8.6 Bq/kg	2.5%	0.81 Bq/kg	
検出	K-40	3650 Bq/kg	±730 Bq/kg	<1%	10.3 Bq/kg	P

【判定条件】 検出(検出下限値以上)

【ピーク検出】 P:ピーク検出 M:同一ピークに複数核種が存在 【ピーク検出条件】 サイドピーク ネットカウント≥1σ



放射能測定結果

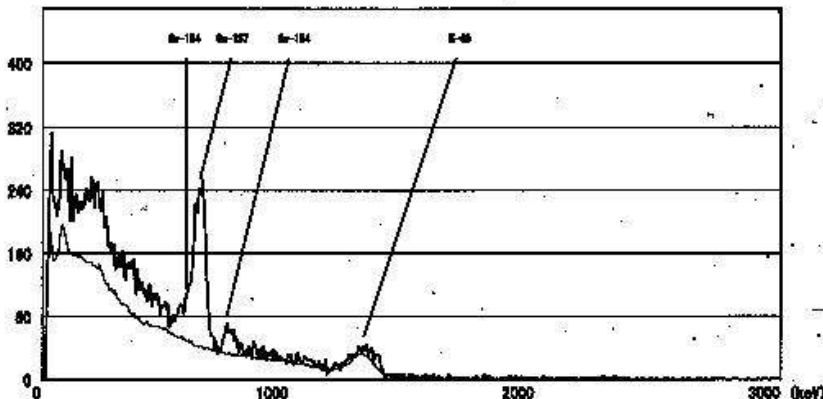
印刷日時：2018/03/21 11:25:12

測定場所	丹波橋測定室	測定者	真藤 祥陽
測定番号	T170806-01	測定機器	AT1320A (S/N:20680)
測定日時	2017年08月06日 14時17分03秒	測定時間	1800 秒
測定容器	0.1ℓ	試料重量	26 g
分析核種	1CaK	信頼水準	0.95
試料情報	福島県の灰		
セシウム合計	1.80 ± 0.30 kBq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
下限以下	I-131	37.3 Bq/kg	±58.8 Bq/kg	>100%	88.2 Bq/kg	
検出	Cs-137	1360 Bq/kg	±290 Bq/kg	7.6%	103 Bq/kg	P
検出	Cs-134	237 Bq/kg	±77 Bq/kg	25.6%	84.6 Bq/kg	P
検出	K-40	2750 Bq/kg	±1010 Bq/kg	30.8%	1250 Bq/kg	P

【判定条件】 検出(検出下限値以上)

【ピーク検出】 P:ピーク検出 M:同一ピークに複数核種が存在 【ピーク検出条件】 サイドピーク ネットカウント≥1σ



上の結果が、今年3月に測定した福井県福井市の薪の灰です。

セシウム137が
25.6ベクレル/kg

セシウム134が
43.1ベクレル/kg

という数値が出ました。

下の結果が、去年8月に測定した福島県福島市の薪の灰です。

セシウム137が
1360ベクレル/kg

セシウム134が
237ベクレル/kg

と高い数値が出ました。

2つを比べてみると、福島市の灰のスペクトルは、放射性セシウムの大きな山がはっきり見えています。

今なお汚染が続いていることが明確にわかります。

一方、福井市の灰のスペクトルを見ると、セシウム134の方は放射性鉛と放射性ビスマスという天然核種の影響による誤検出と思われる。セシウム137はピークが検出されており、過去の核実験かチェルノブイリ事故の残留が考えられます。25.6ベクレル/kgは、灰としては低い方ですが。

どちらも天然核種カリウム40が高濃度に濃縮されています。身体にいいとは言えません。福井市の灰も、吸い込まない方が良いと思います。(S)

測定所全体ミーティング

★毎月1回開催しています。次回は、
4月22日（日）15時～16時30分
場所は丹波橋測定室です。関心のある方
の参加、大歓迎です。

【資料閲覧のおすすめ】

丹波橋測定室では、福島県の新聞の記事を
スクラップしています。
放射能関連の書籍や映像等も閲覧できます
ので、ぜひご利用ください。

2月18日『トリチウム勉強会』の報告

福島第一原発事故で大量に発生した汚染水。それが溜まりに溜まって、タンクの山を築いています。それを「処理」したから海に捨てようと、「原子力規制委員会」が強力に推進しています。その汚染水には、処理不可能な「トリチウム」という怖い、恐ろしい放射性核種が入っています。

2月18日、渡辺悦司さん（政治経済学・経済史学会会員）に講師をお願いし、トリチウムとは何か、その危険性、健康被害の実態について勉強会を開きました。

渡辺さんからはトリチウムの害として、DNA・遺伝情報の破壊（修復が困難な複雑な損傷の危険）について説明がありました。そして、トリチウムは水素と性質が変わらないため、自然界を巡回して汚染を広げ、食品にも含まれていき、広範囲な被害をもたらしていくことが、よくわかりました。マウスの実験例では、トリチウム水による白血病発症率の上昇が認められたというお話と、玄海原発による白血病死亡率上昇の実例のお話を聞き、怖さが実感できました。

そして、原発運転中は日常的に気体・液体トリチウムが無制限に放出されていること、停止中は燃料交換の作業時に一気に大量のトリチウムが放出されるという点で、原発の存在そのものが許されるべきではないと認識を新たにしました。（S）

（勉強会資料は、当測定所ホームページの『論文書庫』に掲載中です。ぜひ見てください。）

会員のみなさまへのお願い

京都測定所をいつもご支援いただき、スタッフ一同感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、現状のままでは大変厳しく、みなさまからの会費と測定依頼に頼るしかありません。

会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員 4千円

サポート会員 2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255 京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961 京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名 四四八 店番 448

普通預金 0677096 京都市民測定所



京都・市民放射能測定所 事務局

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町 55-1

コーポ桃山 105 号部屋

TEL/FAX 075-622-9870

E-mail : shimin_sokutei@yahoo.co.jp

<http://nukecheck.namaste.jp/> <http://crmskyoto.exblog.jp/>